

平成29年7月5日

いよいよ最終ゴール！ 生徒国際イノベーションフォーラム 2017 を開催！

本学が実施した「OECD 東北スクール」の後継事業「地方創生イノベーションスクール 2030」の活動の集大成とし、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターにて「生徒国際イノベーションフォーラム 2017」を開催します。本学がサポートしてきた東北クラスターも参加し、国内外の中高生と交流し、これまでの活動報告や 2030 年問題について議論を行い、共同宣言にまとめます。

本学は、震災からの教育復興をめざして本学が実施した国際プロジェクト「OECD 東北スクール」を引き継ぎ、「地方創生イノベーションスクール 2030」に 2 年間取り組んできまいりした。本プロジェクトの最終ゴールとして、2017 年 8 月 2 日（水）～4 日（金）にかけて、東京都の国立オリンピック記念青少年総合センターにて、「生徒国際イノベーションフォーラム 2017」を開催いたします。

東北、福井、和歌山、広島、島根など日本各地で、2030 年問題や地方創生について学び活動を行ってきた中学生・高校生が一堂に会し、これまでの活動報告を行い交流し合います。同時に、各地域における海外パートナー校の生徒らも参加し、文化交流やグループワーク、ラウンドテーブルなどを行い、共同宣言にまとめます。

当日は、ドイツ、シンガポール、トルコ、アメリカ合衆国、インドネシア、ニュージーランド、フィリピン、エストニア、日本（東北、福井、和歌山、広島、島根）の 15 の国や地域から、200 名を超える中高生や高専の生徒と、教員、研究者・OECD（経済協力開発機構）・大使館・企業・省庁関係者、OECD 東北スクール卒業生を含む大学生ボランティアスタッフなど約 150 名、合計 350 名を超える参加者を見込んでいます。

（お問い合わせ先）

東北クラスター代表 三浦浩喜(福島大学理事・副学長)

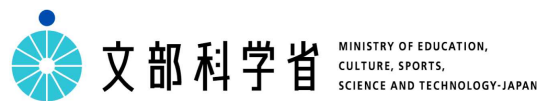
OECD連携事業運営事務局 事務局長 七島貴幸

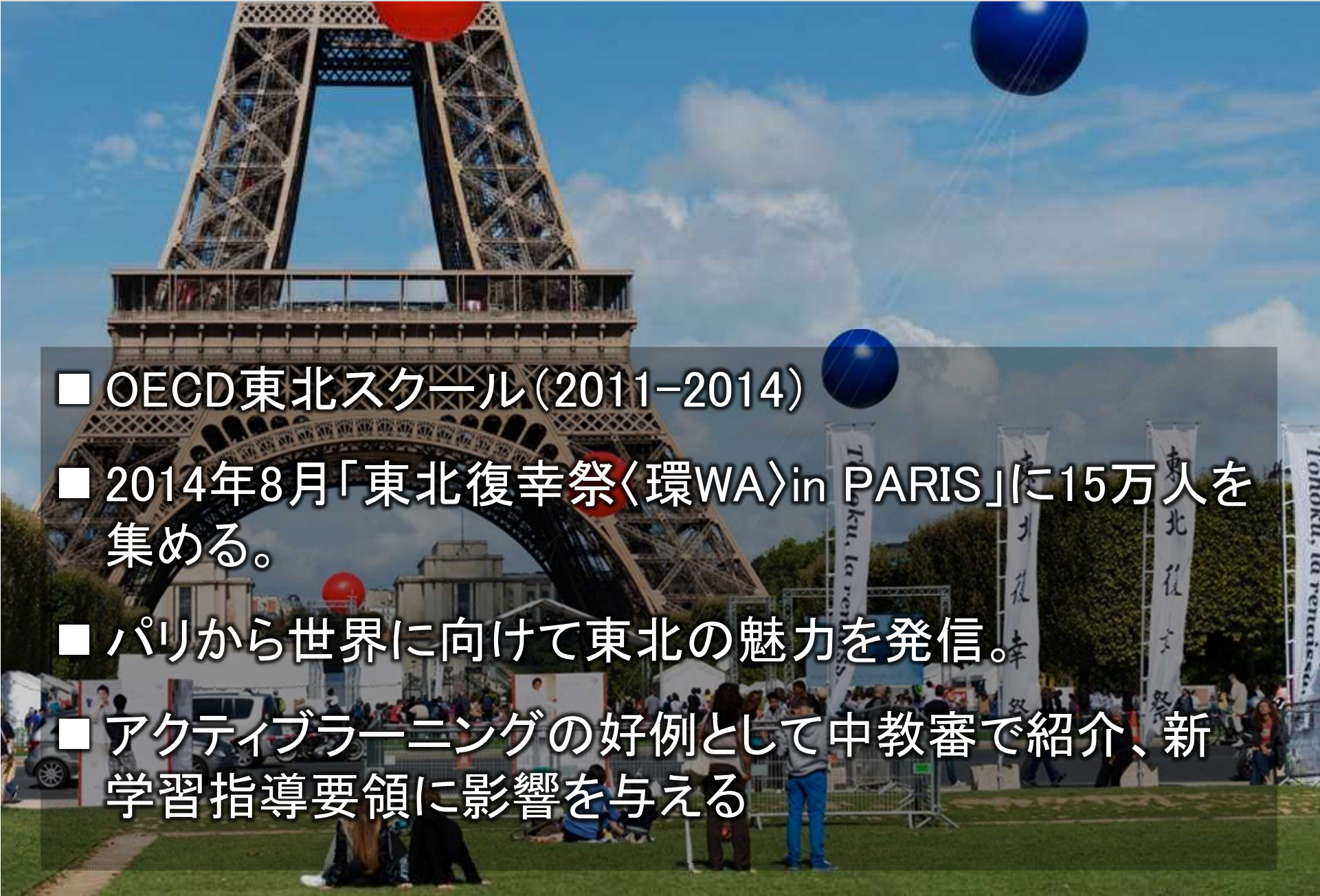
電話：024-503-3803

メールアドレス：info@fukushimauniv.onmicrosoft.com



**International Student
Innovation Forum
2017**



- 
- OECD東北スクール(2011-2014)
 - 2014年8月「東北復幸祭〈環WA〉in PARIS」に15万人を集める。
 - パリから世界に向けて東北の魅力を発信。
 - アクティブラーニングの好例として中教審で紹介、新学習指導要領に影響を与える

**OECD日本イノベーション
教育ネットワークの結成**（2015年）
（代表：鈴木寛氏、共同代表：三浦）
東京大学に事務局

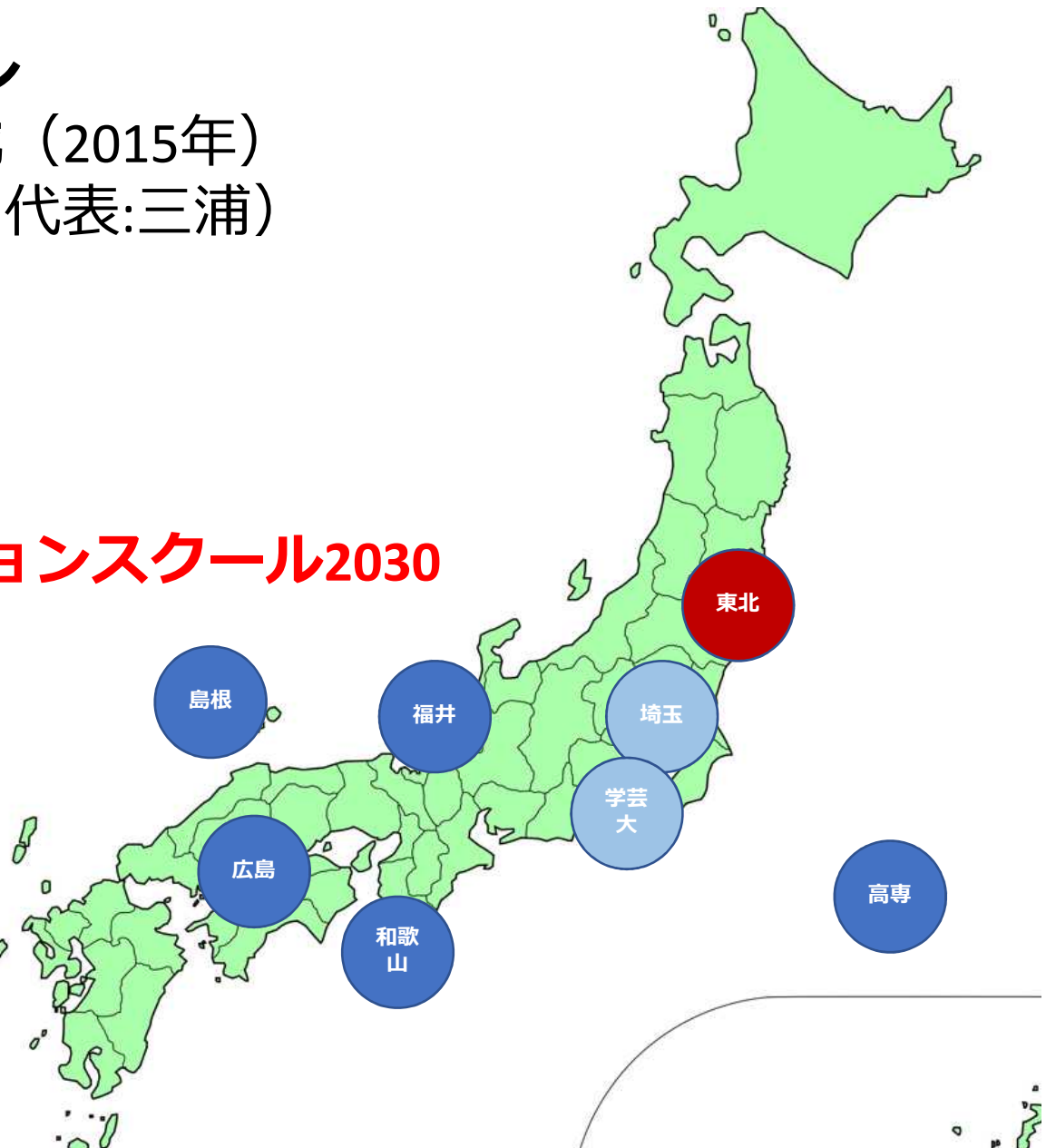
Think tank（研究）と

Do Tank（実践）

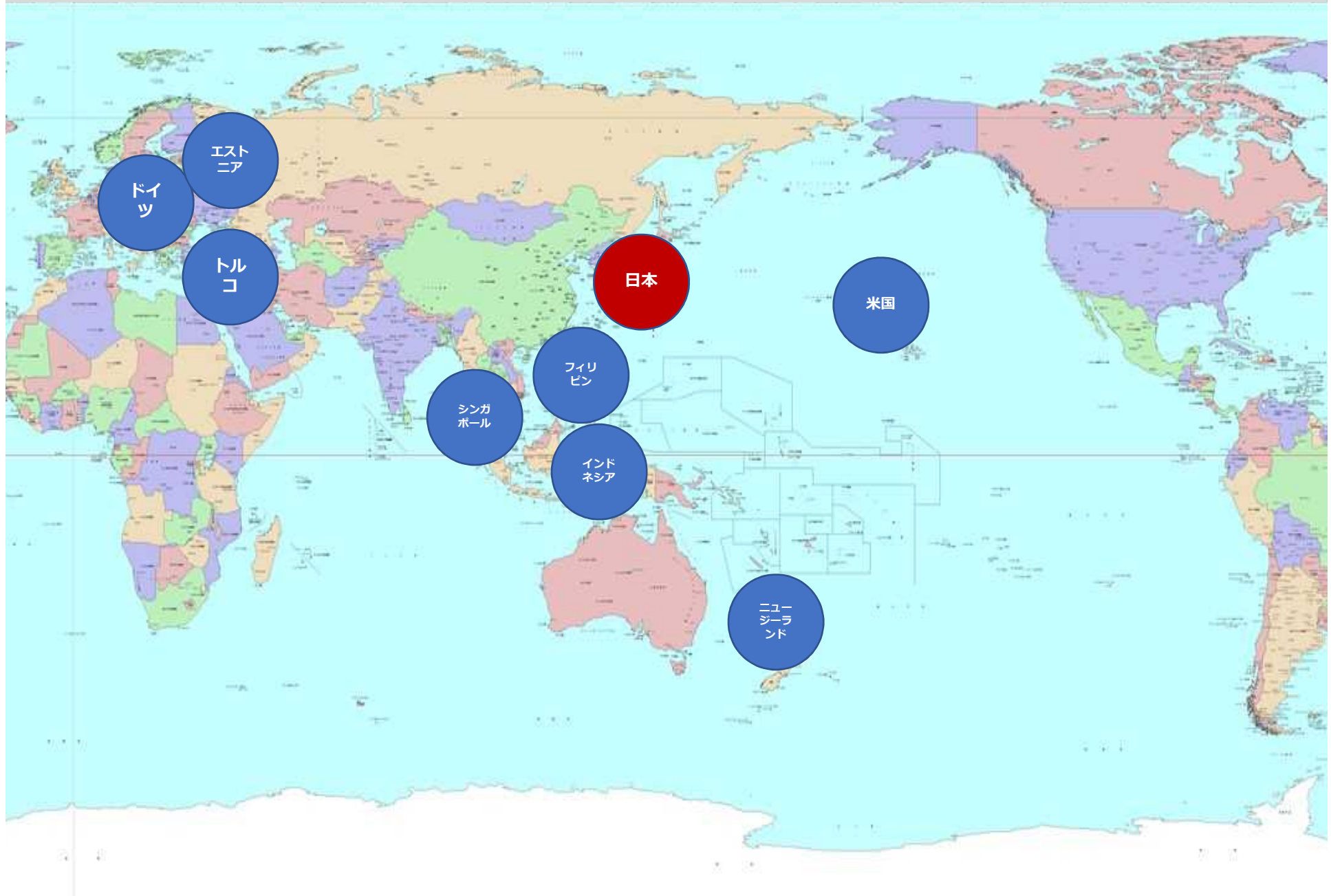
=地方創生イノベーションスクール2030

6 + αのクラスター

**OECDプロジェクト
Education2030との連携**
（キーコンピテンシーの再定義）



6つのクラスターの海外連携



地域活動：
地方創生をめざしたプロジェクト

連携・還元

学校改革：
プロジェクト学習を見据えたカリキュラム改革

東北クラスタースクール
ドイツ人との白熱した交流



東北クラスター（事務局：福島大学）
福島市チーム、ふたば未来学園チーム、
気仙沼市チーム、学生チーム、
東北スクールOBOG、ILLab

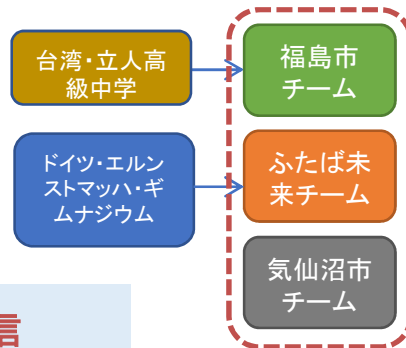
地方創生制作アイデアコンテストで
大臣賞を受賞する福島市チーム



環境問題や少子高齢化、再生可能エネルギーなどの
テーマに即して、海外の地域と共同研究を進める
各地域の課題に即したプロジェクトを生徒が発案し、協
力者とともに実行に移す(東北スクールの活動の継続)



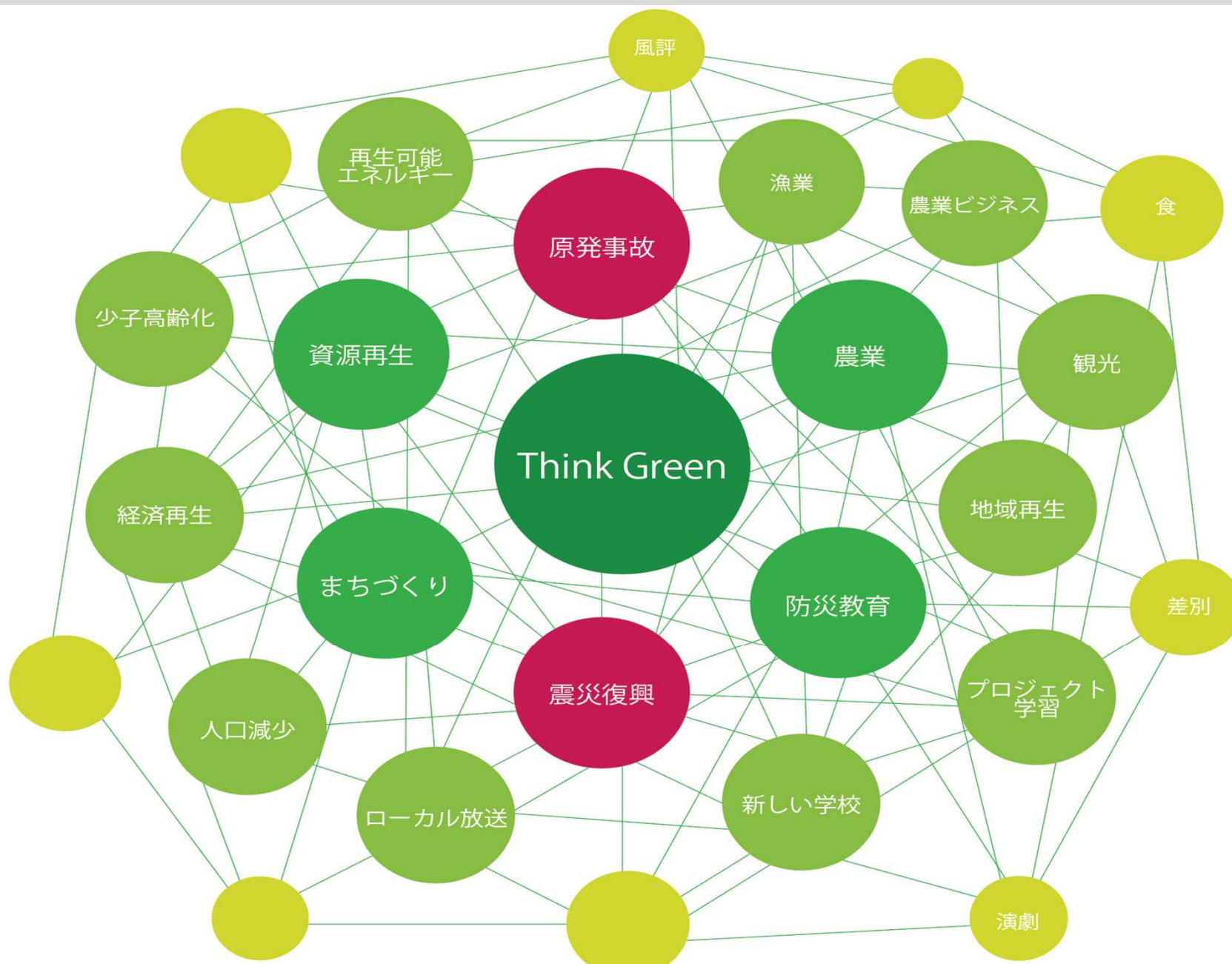
生徒国際イノベーションフォーラムで国内外に発信



21世紀課題に対応できるプロジェクト学習
やアクティブラーニングなどを組み込んだ
学校カリキュラムを探る。
生徒や教員、学校の変容をモニタリングし、
エビデンスを提供する。



学校カリキュラム改革に反映







福島市チームは福島二中と岳陽中の合同チーム。中1の夏から参加。



自分たちのアイデアを地方創生政策アイデアコンテストに応募。高校生以下の部で日本一に。



福島市を海外にPRするために台湾の中等教育学校と連携。福島の現状を伝えてきた。



東北クラスタースクールの一コマ。研究者、教員、大学生、OECD東北スクールOBOGなどが生徒を支える。



ふたば未来学園高校は、学校のカリキュラムとして実施している。高校生らしい専門性が生きている。



OECD東北スクールやイノベーションスクールの取組が認められ、福島大学は教育G7フォローアップ事業に採択された。

生徒国際イノベーションフォーラム2017の開催



地方創生イノベーションスクール2030のゴール

生徒国際 イノベーションフォーラム 2017

2017年8月2～4日

国立オリンピック記念青少年総合センター

主催: OECD日本イノベーション教育ネットワーク

共催 独立行政法人国立青少年教育振興機構

協力: 文部科学省、福島大学

後援 外務省、内閣府、ドイツ大使館、エストニア大使館

200人を超える生徒と教員、研究者、OECD関係者、企業、省庁関係者、
OECD東北スクールOBOG等、計350人が参加

国際フォーラム自体を生徒が発想、準備、運営
異文化交流、実践報告、議論、共同宣言など
コミュニケーションの在り方も検討(富士通・LiveTalkなど)

8月2日（水）

14:30-15:00	受付
15:00-16:00	開会式
16:00-18:00	（ブース設置作業・夕食）
18:00-20:00	生徒異文化交流会-1

8月3日（木）

8:30-11:00	地方創生イノベーションスクールでの取り組み発表（ブースでのポスターセッション）
11:00-15:30	グループワーク：地方創生を考えよう！
15:30-17:30	生徒ラウンドテーブル
17:30-18:30	（夕食）
18:30-20:00	生徒異文化交流会-2

8月4日（金）	
8:30-9:30	地方創生イノベーションスクールでの取り組み発表（ブースでのポスターセッション）8月3日と内容は同様
9:30-11:00	中学生フォーラム 高校生フォーラム 大学生フォーラム、専門職フォーラム、教員フォーラムなど同時進行
11:00-12:00	各フォーラムの代表が集いパネルディスカッション
12:00-13:00	（昼食）
13:00-14:00	閉会式：「2030年を見据えた学校教育のイノベーションの方向性」を定め、ISN2030共同宣言を発信
14:30-17:00	（大人）グローバル・アクティブ・ラーニング・サミット：研究者や教師がISN2030を振り返り、次のプロジェクトのフレームを協議
14:30-17:00	（生徒）東京探索！ ※日本人の生徒が海外の生徒をバディとして案内